

Labo NEWS

Aichi Association of Medical Technologists Report



らぼニュース



CONTENTS

- 巻頭言 遺伝子・染色体研究班 1
- 地区だより(知多) 2
- 精度管理調査結果検討会に
参加して 3
- ASH 2025 in Orlando での
発表を振り返って 4
- (特集)支える力、伝える力
～技師会事務所..... 5
- 第5回 HORIBA
東海地区血液セミナー..... 7
- 演題登録期間延長のお知らせ
第24回愛知県医学検査学会 ... 8
- 会員執筆物の紹介原稿募集 ... 8
- 愛臨技HP求人情報掲載について
..... 8
- メールアドレス登録のお願い ... 8

2026年1月1日現在 正会員数 4,003名

遺伝子・染色体検査の未来を支える

— つながりと実践の研究班活動 —

遺伝子・染色体研究班 杉浦 記弘

愛知県臨床検査技師会 遺伝子・染色体検査研究班は、県内の医療機関や医療施設、検査部門における遺伝子・染色体検査の質の向上と技術発展を目的として活動しています。

本研究班の班員は、病理細胞検査部門、微生物検査部門、血液検査部門をはじめ、生殖関連施設や遺伝子検査専門部門など、さまざまな領域で遺伝子検査に携わる技師によって構成されています。

近年、遺伝子解析技術の進歩やゲノム医療の普及に伴い、臨床現場に求められる検査の精度・迅速性・安全性は、これまで以上に高まっています。当研究班では、こうしたニーズに応えるため、最新の検査手法や解析技術の習得、実務に直結する知識の共有、さらには施設間の連携強化を重視し、実践的な勉強会や研修会を定期的に開催しています。

また、遺伝学的検査に携わる技師としての倫理観や説明責任を重視し、患者さんや医療チームが安心して検査を活用できる体制づくりにも力を入れています。班員間では、それぞれの専門分野の知識や経験を生かしながら、遺伝子検査フローの標準化、品質管理の向上、機器・試薬の適正使用に関する検討、さらには臨床ニーズに即した検査のあり方について活発な議論を行い、現場ですぐに役立つ実践的な知見を蓄積しています。

遺伝子・染色体検査部門は、全国的に見ても必ずしもすべての都道府県に存在するわけではなく、愛知県において本研究班が活動していることには大きな意義があると感じています。実際、研究会のオンデマンド配信には、毎回県外からも多くの方にご参加いただいています。

当研究班は、若手技師の育成と地域医療に貢献できる高度な検査体制の実現を目指して活動しています。遺伝子・染色体検査に興味をお持ちの方は、ぜひ班員としての活動参加もご検討ください。今後も会員相互の交流と研鑽を通じ、愛知県における遺伝子・染色体検査のさらなる発展に寄与していきたいと考えています。





あいち小児保健医療総合センターは、愛知県大府市に位置しています。県内唯一の小児専門の医療機関で、子どもの健康と福祉を総合的に支える役割を担っています。高度な医療技術を備えた小児専門病院として、先天性疾患、感染症、難病、重症疾患などに対応する専門的な診療を行っています。また、小児保健医療として、リハビリテーションや心理支援、発達支援、保育など、多職種が連携して子どもとその家族を包括的にサポートしています。さらに、地域の医療機関や保健所、学校などと連携し、地域全体で子どもの健やかな成長を支える体制を整えています。子どもが安心して治療を受けられるよう、温かく配慮された環境づくりにも力を入れており、未来を担う子どもの笑顔を守るために日々尽力している施設です。(診療科目31科目、病床数200)

2016年に東海三県下初の小児救急病棟を開所し、小児集中治療室(PICU)を設置し、小児救急救命センターに指定されました。近隣の病院での対応が困難な重篤な子どもに対応するための小児三次救急を24時間365日実施しています。体外式膜型人工

肺(ECMO)は常に稼働でき、ECMO 搬送可能なドクターカーも導入しています。遠方からの重篤な子どもを受け入れるため、ヘリポートを整備しており、県内であれば最長で15分でヘリコプターによる搬送が可能となっています。

2024年に臓器移植の拠点病院(臓器提供、移植連携体制構築事業の医療機関)に採択されました。臨床検査室としては法的脳死判定の脳波検査に常に対応できるよう準備しています。

少子化が進む中、子どもを守るためにも小児医療の向上が必要です。当センターは子どもの最後の砦として、臨床検査室もその一員としての役割を果たすため、使命感を持って働いております。

令和7年度 愛知県臨床検査精度管理調査 結果検討会に参加して

名古屋掖済会病院 三谷 有生

令和7年11月9日にウインクあいちで開催された、愛知県臨床検査精度管理調査「結果検討会」に参加いたしました。今年度は新たな取り組みとして「精度管理相談会」が設けられ、日常業務における精度管理に関する疑問や課題について、参加者が直接相談できる機会が用意されました。

今回、私は微生物検査部門の実務委員として、初めて講師側の立場で参加いたしました。結果検討会は各部門に分かれて実施され、招聘施設の参加者は自身の担当分野において「どの部分で誤りが生じたのか」について意見交換を行いました。少人数での対面形式であったため、参加者同士が密度の高いコミュニケーションを取ることができたと感じています。

また、今回評価基準から外れてしまった理由について、普段の培養条件(温度・時間)、薬剤感受性試験の判定基準、感染症法の届出基準などを改めて確認しながら、各施設の運用が適切かどうかを共に検証する場となりました。

私が担当したセクションでは、釣菌問題に関す

る項目を扱いました。腸管感染症から検出される *Yersinia* 属は、使用する培地や培養条件によっては検出が難しく、また発育コロニーが小さいため見逃される可能性があります。そのため、腸管感染症における効率的な検査方法を再考するうえで、適切な分離培地の選択や培養温度・培養時間の確認を行う、非常に良い機会となりました。

結果検討会終了後には、日常業務における疑問点を自由に相談できる時間も設けられており、当院と他院との間で検査手法や精度管理に関する情報交換が活発に行われました。精度管理は分野によって標準化が進んでいない部分もありますが、特に微生物分野では精度管理が難しいと感じています。こうした場に参加し議論を重ねることで、日常の精度管理において、各施設がどのような点に悩まれているのかを知ることができ、大変有意義でした。

県内全体として統一を図り、現場からのボトムアップにつながるよう、今後も継続して啓発を進めていきたいと考えております。最後になりましたが、より質の高い臨床検査の精度保証を提供できるよう、引き続き努めてまいります。

JA 愛知厚生連 海南病院 伊藤 直之

先日、愛知県臨床検査技師会が主催する精度管理調査結果検討会に参加しました。

当施設は本年度の愛知県臨床検査精度管理調査において感染症項目で一部乖離が認められたため、その原因追及のために参加しました。当院でも調査結果を受けて原因追及を進めており、メーカーの方にも調査を依頼していましたが現時点では明確な原因は掴めていませんでした。

検討会では技師会の担当の方がこちらの状況を親

身になって聞いて下さり、結果のデータや当院での精度管理の状況、使用している試薬のロットなどから原因を詳細に分析していただきました。その結果、ある程度の原因を絞り込むことが出来、今後の対策の方向性を見出すことが出来ました。

また、担当技師の方と日々の精度管理の取り組みやルーチン業務における課題、効率化の工夫などについて意見交換をする機会にもなり、他施設のリアルな声や実践的な知識に触れることができ、大変勉強になりました。

ASH 2025 in Orlando での発表を振り返って

藤田医科大学 医療科学部 細胞機能解析学分野 土井 洋輝



2025年12月6日から9日にかけて、米国フロリダ州オーランドにて開催された

67th American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting & Exposition

に参加し、ポスター発表を行いましたのでご報告いたします。

ASHは世界最大規模の血液学会であり、基礎研究、臨床研究、さらにはトランスレーショナル研究に至るまで、血液学分野の最先端の知見が集約される国際学会です。MDに加えてPhD研究者の参加が多い点も本学会の大きな特徴であり、臨床系セッションと並行して基礎研究を主軸としたセッションが常時開催されています。発表者にはMDとPhDの双方が含まれており、基礎的知見が速やかに臨床応用へと展開される、血液学領域におけるトランスレーショナル研究の先進性を強く実感しました。

ASHは学術誌Bloodを刊行する権威ある学会であり、例年3万人を超える参加者を集め、本年度も8,000題以上の演題が発表されるなど、規模・内容ともに世界最高水準の学術集会であると感じました。私は

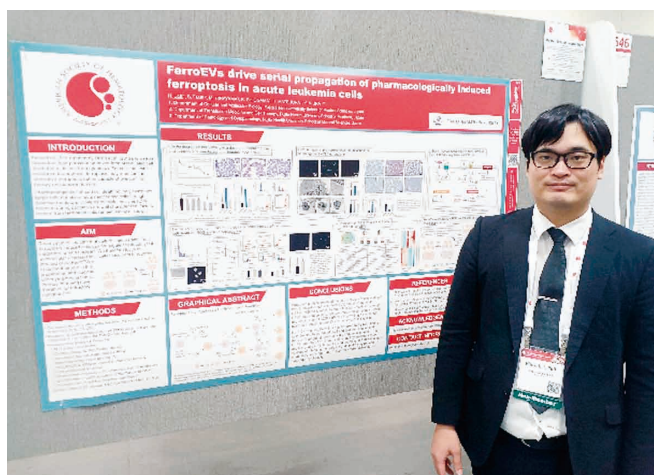
[FerroEVs drive serial propagation of pharmacologically induced ferroptosis in acute leukemia cells]

という演題で発表を行いました。本研究では、フェロトーシス誘導剤Erastin処理により、急性白血

病細胞がROS増加、ミトコンドリア機能障害、脂質過酸化、FACL4上昇およびGPX4低下を伴う非アポトーシス性細胞死を示すことを明らかにしました。さらに、フェロトーシス細胞から放出されるHSP90高含有細胞外小胞(FerroEVs)が周囲細胞に取り込まれ、フェロトーシスを連鎖的に伝播させることを示しました。本成果は、フェロトーシスが細胞自律的現象にとどまらず、EVsを介して細胞間で増幅・伝播し得ることを示すものであり、アポトーシス抵抗性を示す難治性白血病に対する新規治療戦略の基盤となる重要な知見であると

考えています。

ポスター発表の持ち時間は2時間でしたが、多くの研究者や臨床医と直接議論する機会を得ることができ、研究内容に対する評価や今後の課題について貴重な助言を多数いただきました。英語を共通言語とする国際学会において、自らの研究を積極的に発信し議論することの重要性を改めて認識するとともに、今後の研究活動を推進する上での大きな契機となりました。本学会参加にあたり、愛知県臨床検査技師会より国際交流助成金のご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。本経験を今後の研究活動および国際的な学術交流のさらなる発展に活かしてまいります。

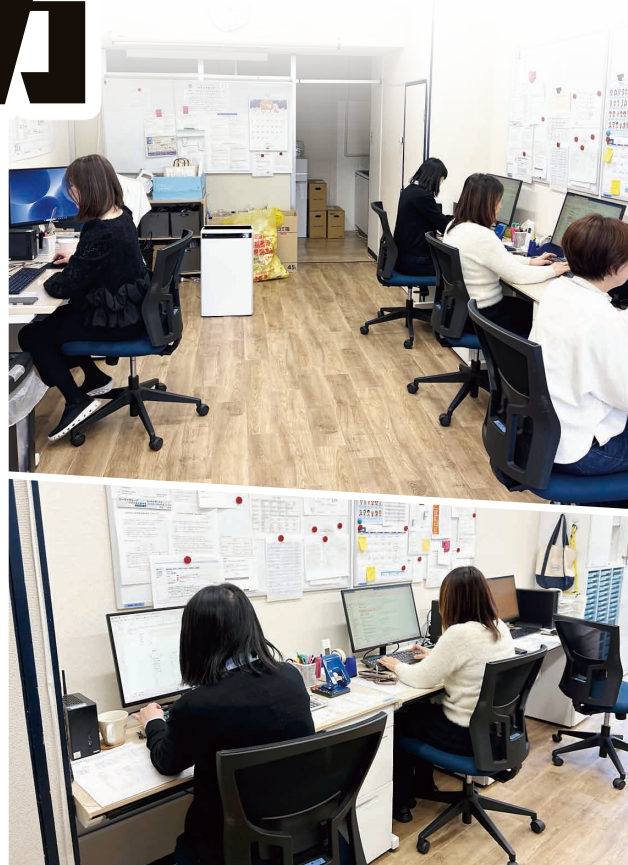


支える力、伝える力

愛知県臨床検査技師会 事務所 事務職員の役割

私たちの活動の「拠点」を守る人たち

私たち愛知県臨床検査技師会の活動を支える4名の事務職員さんは、月～金曜日の10時～16時迄の間に愛臨技事務所にて、庶務業務(研究班、地区、理事等から提出される書類の整理、確認作業)、会計業務(入金・支払)、郵送作業、会員および関係団体等から問い合わせ対応などなど多岐に渡る事務作業を行っています。今回は、事務職員の方々の似顔絵とともに日々の業務内容、作業風景をご紹介します。



事務職員の紹介と会員の皆様へ一言メッセージ



伊藤 早苗さん

勤務9年目です。普段は理事の皆様と関わる事が多く、会員の皆様と直接お話する機会は少ないのですが、ご依頼にはできるだけ早く丁寧に対応できるよう心がけております。



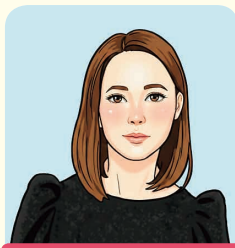
大野 彰子さん

勤務9年目です。理事の皆様の支えと働きやすい環境に感謝しています。また臨床検査技師の皆様が医療を支える大切な存在であることを、業務を通して知ることができました。これからもよろしくお願いいたします。



河上ひとみさん

事務員5年目になります。パソコンなどまだ不慣れなことも多く、その都度みなさんに教えていただきながら業務に取り組んでいます。



岩崎 雅子さん

現在4年目です。まだまだわからないことも多いですが、皆様のお役に立てるよう、丁寧な対応を心がけています。よろしくお願いいたします。

事務員一同より
会員の皆様へお願い

メンバーは4名いますが、普段は1～3名体制で医療の専門的な知識のない事務員で対応しております。認識の相違を防ぐため、また正確なご案内のためにも、お問い合わせはメールにていただけますと幸いです。ご理解とご協力をお願いいたします。

愛臨技事務所の1日をピックアップしました

事務局の1日は、庶務業務、会計業務と細かい作業が多くあります。
皆様から届く書類、メールの一つひとつが、丁寧な作業によって処理されています。

	庶 務	会 計
10:00	掃除	会計処理
10:05	メールチェック 理事への転送 依頼メールの処理 電話対応	・請求書と引落とし金額チェック ・領収書の入力作業 会計事務所とのメール
10:30	支払い依頼 委嘱状チェック 謝金・交通費・源泉徴収金額確認	
11:00	標準化現金チェック 切手・ゆうパック金額チェック	ネットバンキング支払 名前・銀行名・店名・口座番号・金額をチェックしながらの入力作業となるので、変更がある場合は速やかに連絡をお願いいたします。 ネットバンキング 読み仮名・漢字の相違確認入力
12:00	昼休み	
13:00	郵便物確認 ・届いたものをPDFにして理事にメール	赤字補填 管理費按分作業
13:15	支払票・源泉徴収一覧表・支払い内訳書作成 ・会員番号順に並び替え税金支払い時の人数確認 ・金額確認	
14:00		地区・学術部出納簿入力
14:30	ネットバンキング支払済の班に請求	
15:00	学術部の領収書が届く 出納簿への付け合わせ 訂正し、最新版作成後学術部へメール	
15:30		現金・預金金額確認
16:00	退所	

第5回 HORIBA 東海地区 血液セミナーのご案内

開催日時 2026年2月28日(土) 14:30～17:00

開催方式 Zoomによるオンラインセミナー

参加費 無料 **定員** 先着500名

お申し込み 以下のURLまたは二次元コードからお申込みください
<https://horiba.link/horiba-medical-seminar-20260228>

全国から
参加可能



※当日の視聴用URLはご登録のメールアドレスにお送りします。
※一つのメールアドレスにつきご登録はお一人までとなります。
※当日ご参加いただけない場合も、事前のご登録で後日見逃し配信のURLをお送りいたします。

司会
コメンテーター

岐阜市民病院	中央検査部	渡邊 宜典 先生
鈴鹿回生病院	臨床検査課	広瀬 逸子 先生
藤田医科大学病院	臨床検査部	佐藤 聖子 先生

講演1

RCPC～検査データから病態を推論する力を養おう～

講師 武村 友貴 先生

公立陶生病院 臨床検査部

検査結果や形態所見を基に病態をどのように理解し推論していくのか。
日常業務で経験する白血球増加例を中心に、解釈に迷う症例を取り上げながら検査データからどのように病態を導くかをクイズ形式でお答えいただきながら一緒に考えていきたいと思います。

講演2

白血球増加時の見方・考え方

講師 稲葉 亨 先生

京都府立医科大学 感染制御・検査医学 病院教授
同 附属病院臨床検査部 部長

白血球増加は日常検査現場で遭遇することが多い検査値異常ですが、その実態は一過性/反応性の軽度な増加から進行性/腫瘍性の著明な増加まで様々です。今回のセミナーでは白血球増加を見つけた際に、視聴者の皆様に御注意頂きたいポイントを中心にお話しさせていただきます。

※ご講演の間に会社説明・弊社製品の紹介を行います。ご了承ください。

【お問合せ先】 HORIBA血液セミナー事務局 (hor-med.hor@horiba.com)

HOR-MKT-PROMO-2025-0044 2025年11月作成

第24回 愛知県医学検査学会

～ 演題登録期間延長のお知らせ ～

「第24回愛知県医学検査学会」の演題募集につきまして、多数のご応募をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、より充実した学会プログラムとするため、演題募集期間を延長することといたしました。

未登録の方におかれましては、日頃の研究成果や実践報告をご発表いただく絶好の機会となりますので、この機会にぜひご応募ください。

一般演題 募 集

演題登録期間について、下記のとおり募集期間を延長いたします。

登録期間：令和7年11月17日(月)～**令和8年2月13日(金)**

登録方法：「第24回愛知県医学検査学会」ホームページより詳細を確認のうえ、登録手続きを行ってください。なお、非会員の方は下記問合せ先までご連絡ください。

学会ホームページ URL：https://aichi-amt.or.jp/igakukensa/how-to-register

問合せ先：抄録担当 神野 真司(藤田医科大学ばんだね病院) E-mail：aamt24abstract@gmail.com

会員執筆物の紹介原稿募集します！

会員の業績紹介の一つの方法として、らばニュースにて論文、書籍執筆(分担執筆を含む)などの紹介掲載を受け付けます。自薦・他薦は問いません。

掲載を希望される方は愛臨技 HP【会員サイト】(各種手続き)に申請書、手続き方法を掲載してありますのでご覧ください、お申し込みください。



愛臨技 HP

愛臨技HP 求人情報掲載

愛臨技HPに臨床検査技師求人情報の掲載を始めました。

掲載を希望される会員は、愛臨技HP会員サイト内「各種手続き」、「求人掲載依頼」画面にて必要事項を入力、求人票登録をお願いいたします。

なお、求人掲載は施設会員のみとしますが、求人情報は会員以外でも閲覧可能です。

詳細は愛臨技HPにてご確認ください。

メールアドレス登録と受信設定のお願い

毎月会報『らばニュース』Web版発行のお知らせを日臨技会員システムに登録されたアドレス宛にメール配信しています。その他、重要な情報提供、お知らせなどもメール配信させていただきます。会員の皆様には登録メールアドレスの確認と、変更がありましたら日臨技会員専用ページにて変更手続きをお願いします。また、迷惑メール防止の受信設定をされている方は、下記のメールアドレスからの受信ができるよう、設定をお願いします。ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

jamt_pref23@sys.jamt.or.jp